

“確かな力”の育成を目指した 「アクションプラン」の作成と活用を！

新型コロナウイルス感染症への様々な対応がある中ですが、今年度も「アクションプラン」の作成と活用をお願いしているところです。

確かな力の育成を目指して、学校が一丸となって授業づくりに取り組むために、ぜひ、「アクションプラン」を作成ください。

本通信では、作成上のポイント等を整理してお知らせいたします。

【アクションプラン作成の手順】(最上教育事務所バージョン)

1 児童生徒の実態(よさや課題)を明確にする → アクションプラン(1)①に記入

- ① 昨年度の全国学調や県学調の結果
 - ② 各種テスト(NRTやCRT, 評価問題)
 - ③ 日常の授業の様子、定期テスト 等 から児童生徒の実態を把握する。
 - ④ 必要に応じて、今年度の全国学力調査の結果を活用する。
(算数・数学については、希望により当所で分析を行いますので、御活用ください)
- 昨年年度末や今年度当初に学校として確認している児童生徒の姿を再確認する。



2 児童生徒につけたい力を明確にする → アクションプラン(1)②に記入



育成したい資質・能力を学校全体で再確認する。

★今年度の調査問題を分析し、その問題から見える「求められる資質・能力」や「本校の児童生徒に育成したい資質・能力」を整理してみる。

→ 問題を実際に解いてみることで、見えてくるものがあるはずです。

1UP

3 必要な指導・取組み等を焦点化する → アクションプラン(2)に記入

「つけたい力(資質・能力)を育成するために、学校として全学年・全教科の授業で実施したい指導や取組の内容を明確にする。

年度当初に既に確認されていることでもよい。改めて、全職員で共有し、今後の授業づくりにつなげていく。



4 児童生徒の姿(成果や課題)を評価し、取組をブラッシュアップする。



→ アクションプラン(3)に記入

成果と課題の要因を分析し、成果につながった指導や取組は継続し、課題については新たな改善策(指導・取組内容)を考える。

★ 先進校のアクションプランを基に作成のポイントを別紙にまとめましたので、御活用ください。

先進校の取組から～資質・能力を育む具体的な指導・取組み～

知識及び技能

※(中)…中学校での取組み

- 自分の根拠を書き分けた文章構成を考えさせる。
- 図や文章に印を付けながら問題文を読む経験を積ませる。
- 相手に応じた言葉や分かりやすい文、一文の長さ(字数制限)についての学習を行う。
- 字数、必ず入れるキーワード等、条件を決めて書かせる。
- 課題設定時に、分かっていること(事実)とたずねていること(問い)が理解できているか確認していく。
- 教師は説明の質にこだわる。「何が言えればよいか」、「どう説明できたらよいか」を具体的に持つ。
- 習得と活用のバランスを考えた授業計画を行う。(中)

思考力・判断力・表現力

- 自分の考えを記述する学習活動を日常化する。学習のまとめは、指定したキーワードを使って記述させる。
- 筆者の考えがどの図表やグラフに基づいているのかを読み取る学習をする。
- 長文問題に段階的に取り組んでいく。
- マス目用紙を使って、字数制限に沿って書く活動を取り入れていく。
- 「複数の情報を関連付けて思考する問題」を意図的に取り入れていく。また、解いて丸つけで終わらせず、「自分の考えを筋道立てて書く」「再思考した考えを整理し、相手に分かりやすく書いたり伝えたりする活動」を設定していく。
- 定期テストなどで、文章記述式の問いを全教科で増やし、書く力を身につけさせていく。(中)
- 多様な考えを引き出す課題の設定と思考の段階で言語化する活動を仕組む。(中)

学びに向かう力・人間性等

- 余剰時間(例パワーアップタイム)・家庭学習を活用して問題に慣れさせる。
- 言語活動を支える読書指導の改善と充実を図る。
- スパイス問題やつまづき発見問題集・単元末評価シート・わくわく発見シートを使いやすくする環境整備を実施する。
- 授業の中での課題を明確にし、個人で考える時間と個人の考えが生きるグループ学習の時間を設定する。(中)
- 学級活動の時間を活用し、新聞や雑誌等多用な情報に触れ、興味ある話題について学級の中で紹介し感想等を発表し合う時間を設定する。(中)

アクションプランの活用や授業改善への組織的な取組の充実に向けて、学校訪問の際に支援させていただきますが、その他市町村での研修や各学校校内研修の中でご要望があれば、最上教育事務所「学力向上支援チーム」で可能な限り対応していきますので、お気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ先】 最上教育事務所指導課 29-1439 (担当:黒沼)